

日本工学院専門学校蒲田	開講年度	2020年度	科目名	放送映画リテラシーF2
<b>科目基礎情報</b>				
開設学科	放送芸術科	コース名		開設期 後期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数 30時間
単位数	2単位			授業形態 講義
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。			
<b>担当教員情報</b>				
担当教員	平岩モトイ	実務経験の有無・職種	有・CMディレクター、クリエイティブ・ディレクター	
<b>学習目的</b>				
<p>本科目を受講する生徒にとってのCMは、映像コミュニケーションのあらゆることを教えてくれる宝の山である。たった15秒のCMには、映画誕生から120年余りの間に発見・考案されたあらゆる映像手法が駆使されており、我々はそこから多くのテクニックを学ぶことができる。ディレクター、プランナーはもちろん、CM業界に限らず広く放送・映像業界で仕事をしようとする若者にとって欠かせない映像の基礎体力作りを目指す。</p>				
<b>到達目標</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像手法のパターンを知ること、自分の仕事に応用ができるようになる。</li> <li>・映像の本質を理解することができる。</li> </ul>				
<b>教育方法等</b>				
授業概要	テーマごとにふさわしいアーカイブ映像を視聴し、「サンプル視聴」→「ポイントの整理」を繰り返すことで、なぜその表現が作られたのかを理解する。生徒の積極的な参加を促すために「アンケート」「レポート」を適宜実施する。やむを得ず、内容が前後、または変更する場合がある。			
注意点	遅刻・途中退会をしないこと。（正当な理由がある場合はその旨、申し出ること）内部資料を扱うことがあるため、授業で知り得た情報をSNS等へ書き込むことを禁ずる。授業中の飲食、スマホ、ゲーム機の使用は禁止する。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。			
評価方法	種別	割合	備考	
	試験・課題	60%	前期、後期それぞれの期末テストによる	
	小テスト			
	レポート	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する	
	成果発表 (口頭・実技)			
	平常点	20%	授業態度を評価する	
<b>授業計画（1回～15回）</b>				
回	授業内容	各回の到達目標		
1回	音と映像	CMは映像半分、音半分と言われる。音の重要性を理解する		
2回	コマソン	コマソンがどのように作られるかを知る		
3回	子役	子役の重要性を知る		
4回	外タレ	外タレがどのように愛されてきたかを知る		
5回	素人・老人	素人タレントの底知れないパワーを理解する		
6回	制服	映像における制服の役割を理解する		
7回	ヒーロー	制服から見たヒーロー像を知る		
8回	ダンス1	ダンスと映像の親和性を理解する		
9回	ダンス2	続々と作られるダンスCMについて理解する		
10回	映像心理学①恐怖訴求	人を怖がらせることで、ものが売れる？恐怖訴求の実際を知る		
11回	映像心理学②射幸心	人が持つ射幸心について理解する		
12回	映像心理学③比較・実証	人は見たものを信じる。実証CMの効果を知る		
13回	映像心理学④映像とプレゼン	プレゼンに映像が使われる理由と意味を知る		
14回	海外CM	日本CMと海外CMの違いを知る		
15回	まとめ	総括		